

# 暮らしの？

kurashi no hatena

子供が生まれるのを機に、家の購入を決めたOさん夫婦。新築マンションも見学したが、「微に入り細に入りの便利な設備が整いすぎて、最先端の生活スタイルを押しつけられている気がした」と違和感を覚えた。

てリノベーションした。もともとあったリビングは、窓際にある巨大なはりや柱が部屋全体に圧迫感を与えていたが、張り出したはりの幅に合わせた収納を窓際に作りつけた。

収納の色を従来の窓枠の色にそ

## 先端機能より独自スタイル

そこで自分たちが本当に欲しい機能や、雰囲気を手に入れられるリノベーション住宅に住もうと決めた。

1970年代に建てられた集合住宅の一室を購入。間取りはほとんど手を入れず、内装にこだわっ

ろえてなじませ、はりや柱の強烈な存在感を緩和させることに成功している。

部屋作りの参考にしたのは戦後日本を代表する建築家の前川国男の邸宅。フランスでキャリアを積んだ後に日本で東京文化会館や京

## リノベしました



はりや柱の圧迫感を緩和させた窓際の収納。雰囲気の良い窓辺に

### 大阪府豊中市 築45年

都会館などを残した前川が建てた自邸は、外観は伝統的な日本建築だが、室内には幾何学的な格子窓や障子などモダンイズムの造形を取り入れている。

Oさんは「西洋文化と日本文化の美が絶妙に調和した姿に憧れている」といい、リビングや寝室に正方形の格子窓を取り入れた。「家族の希望がかない、納得した家に住めることは幸いです。この先も自分たちの生活スタイルに合わせながら居心地よく住んでいけると思います」と話している。

昭和45年築のマンション。施工面積は約71平方メートル。リノベーション費用は約800万円。